

～ モディ新政権とインド経済について ～

これまでのインド経済

インドの2014年第1四半期の実質GDP成長率は、4.6%と前期から横ばいとなりました。

インドの経済成長をみてみると、2008年のリーマン・ショック前には、9%台後半の高成長の水準にありましたが、リーマン・ショック後は急低下し、2009年第1四半期には、3.5%となりました。その後、経済成長率は、2010年第1四半期には、11.4%まで回復しましたが、長くは続かず、2012年第2四半期からは、4～5%で推移しています(図表1)。

インド経済が低迷した原因として、以下の点が指摘されています。

- ①前政権において、インフラ整備計画の遅れや財政赤字、経常赤字や失業率の悪化などの問題が顕在化したこと
 - ②国内物価が上昇し、景気が減速したこと
 - ③景気減速により経常収支が悪化し、インドへの資本流入が停滞し、インドルピーが下落したこと(図表2)
- などです。

国内物価の上昇やインドルピーの下落に対し、RBI(インド準備銀行)は、2013年9月から数回、政策金利の引上げを行っています。

モディ新政権への期待

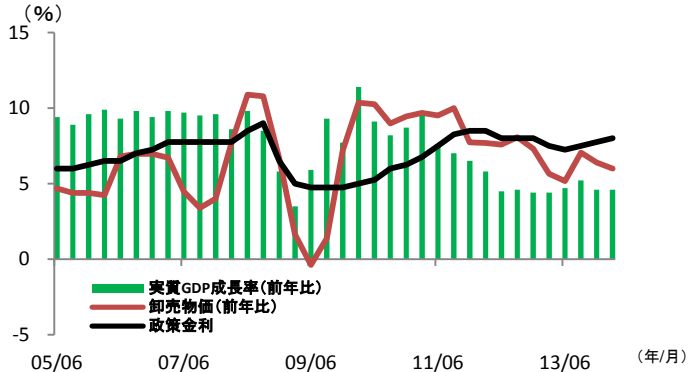
政策金利の引き上げにより、実質長期金利は2.64%(5月時点)と高い水準にあり、インドルピーの上昇の下支えになっていると思われます。また、インド株式は、今年5月にスタートしたモディ新政権への期待から上昇しているとも考えられます。(図表3)

今後のインド経済の発展は、モディ新政権の改革にかかっていると思われます。モディ新首相が率いるBJP(インド人民党)のマニフェスト(政権公約)には、「交通、通信、エネルギー供給などのインフラを整備し、外国資本を呼び込み、新たな産業を育成して雇用を創出する」とあります。製造業の育成や外資参入の規制緩和が期待されます。また、7月の2014年度(14年4月～15年3月)の予算案の発表も注目されています。

モディ新政権の改革が実行に移されるにつれ、海外投資家の資本流入が増加し、インド経済の成長率の底上げも可能ではないかと考えられます。インド経済の発展とともに、インド株式は中長期的に上昇基調をたどると考えられます。

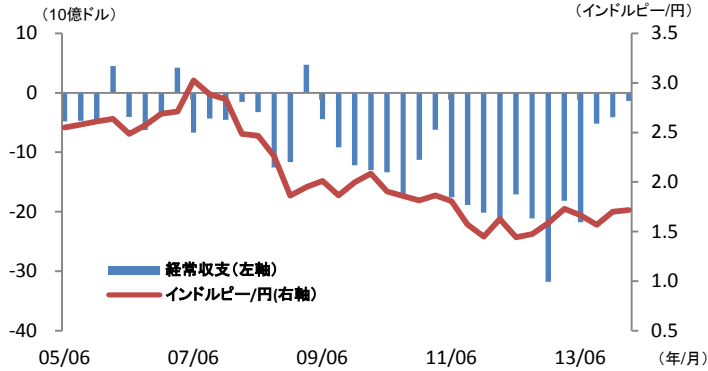
図表1:インドの実質GDP成長率、卸売物価、政策金利

(期間:2005年第2四半期～2014年第1四半期、四半期)



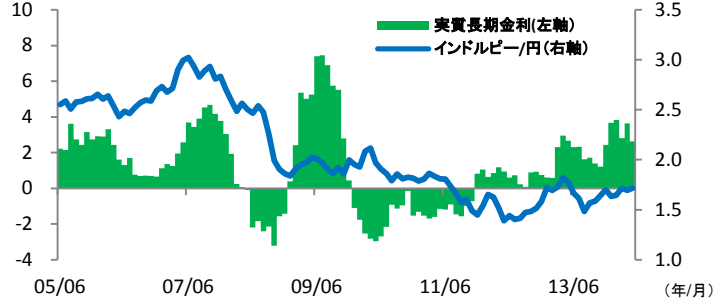
図表2:インドの経常収支とインドルピー/円

(期間:2005年第2四半期～2014年第1四半期、四半期)

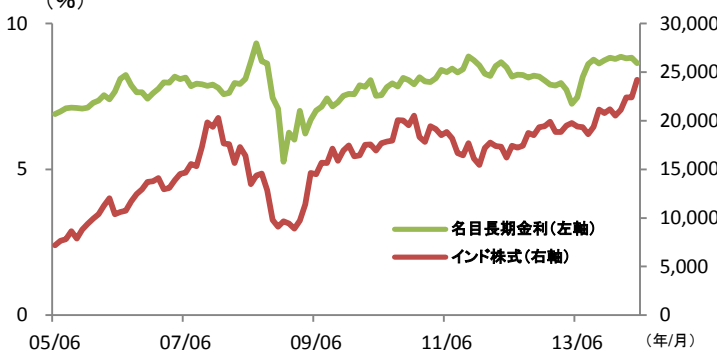


図表3:インドの実質・名目金利とインドルピー/円、インド株式

(期間:2005年6月～2014年5月、月次)



(期間:2005年6月～2014年5月、月次)



※実質長期金利=名目長期金利(10年国債利回り)-卸売物価(前年比)、
インド株式:S&PムンバイSENSEX指数

(出所:図表1～3はいずれもブルームバーグ、インド準備銀行のデータよりニッセイアセットマネジメントが作成)

当資料は市場環境に関する情報の提供を目的としてニッセイアセットマネジメントが作成したものであり、特定の有価証券等の勧誘を目的とするものではありません。当資料は信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。当資料のグラフ・数値等はあくまでも過去の実績であり、将来の投資収益を示唆あるいは保証するものではありません。また税金・手数料等を考慮しておりませんので、実質的な投資成果を示すものではありません。当資料のいかなる内容も、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。